

STATE

1999年 X月 X日

ユウは、中東北部の砂漠地帯を時折強く吹き荒れる砂嵐の中に立っていた。彼は長い旅の途中、あるきっかけで武装した人民軍と同行することになったが、これは彼にとって幸運だった。彼は日本を出るとき50人の人間が一生暮らせるくらいの、丸菓状の食糧「M」を持っていた。日本では誕生と同時に125年分のMが支給されることになっている。政府は今も人間の寿命はまだ伸びていくと信じているが、実際には55年くらいが限界で、その頃には誰もが、あるいはその前に原因不明の死を迎えていた。政府は崩壊した国家からとどめもなく世界中に流れ出した難民達を始め、連鎖的に起こる地震や狂った気象条件により食糧や燃料をめぐって次々と起こる戦争と内乱によって生み出される戦争難民達を、緊迫する国際情勢のもとに受け入れてきた結果、人口で膨れ上がった都市を管理する事が不可能になっていた。鬱積した国内を治めるため、日本人には誕生と同時にMを支給して最低の生きる権利を保障した。また海外に出ようとする若者を保護する目的で、彼らにはさらに8人分のMを支給した。そんな事情でMは、日本人の間ではだぶつき、世界事情の中では通過的な意味を持ち始めていた。

ユウは、そんな事情の中で国を棄てた。生産活動が意味を持たない国には、生きる目的さえ持てない若者が多くまれ、といて海外に出たとしても、それはつらく永い死へ向かう旅を意味していたのである。

彼はモロッコで人民軍のひとりである「ムーン」と名乗るアジア系の男に出会った。彼とは往来で一度、黄色い建物で一度会った。黄色い建物は世界各地に在り、国を持たない家の意味である。3度目に会った時、彼は自分達の仲間に入るよう求めた。彼らは武装していると言っても特定の敵がある訳ではなく、人種も国もばらばらの、

正体不明の人間達の集まりで、ユウのようにあてのない旅人達が自衛手段として自然と集まり防備して暮らす内に人民軍の容を呈したのである。彼らはほとんど、砂漠の中を移動しながらのキャンプ暮らしであるが、彼らの砂漠の中で暮らす手段と守りに徹した武力は驚くほどである。

ユウは、20人余のキャンプ3年分の食糧Mと交換に砂漠での安全な旅を手に入れることができた。砂漠の強い嵐を凌ぐには大人数のキャンプに潜り込むのが一番の方法である。

彼らは風と砂と激しい温度差から完全に身を守ることもできる「カプセル」を持っていた。

絶え間なく体温と水分を奪う砂と風さえ克服できれば砂漠ほど安全な楽園はないとムーンは言った。

外敵は殆どいない。細菌もここでは生きられない。我々は、目的のない旅をしているのだから道に迷って心細い思いもしない。

ただ束の間の美しい星空や、美しい音のない旋律を描く、砂の風紋を愛し、生きている。

我々は砂とともに生き、最後は砂に葬られるだろう。砂は我々の体を受け入れ、我々もすぐにあの風紋になることができるだろう。砂は大地の最後の形なのだ。

砂漠での最後の夜は静かでもどこまでも美しく、
宝石を散りばめたような星星と
均整のとれた 三日月の光の下、
いつまでもムーンは話し続けた。

2000年の最初の夜明けが訪れた時、
ユウは皆に別れを告げた。
そして、東へと歩き始めた。

Milk Hall Times
1991年 1月号 掲載



Mein Tee

ART INDUSTRIE



INFORMATION

1998年度、ヨレクホール名簿更新のお申し込みを数多く頂き有難うございました。
お申し込みに加えてお手紙も沢山頂きました。本当に有難うございます。
ヨレクホールでは皆様からのご投稿やご意見、ご感想などお待ちしております。
また、DM郵送について手違いがありましたら、お手数ですがご連絡ください。
ヨレクホールタイムスはインターネットでもご覧になれます。
<http://www.milkhall.co.jp/> Fax 0467(22)1179

明月通信

古道具や

下駄箱もある、風呂桶もある、膳椀茶碗皿徳利もある、風雅な花生もある。
三味線胡弓琴もある、マンドリンまである、何がある、彼がある…乍去、いづれも
使い古した 疲労の色、浮世の辛酸が漂っている。
それでも何時か買い手がついて 若干の銭に替えられて持って行かれる。
店のあるじ、いづれ世渡りのさまざまを 尽した果てであらう 使い古しは、
店の品物に幾層倍のより以上……
但し、こいつは滅多に買い手つかないで……

昭和三年発行 職業づくしより

さて、ヨレクホールの蚤の市。
古いものなら何でもそろそろ掘り出し物がいっぱい、ヨレクホールの蚤の市。
などと、大きなことを言ってみても、
たしかに、下駄箱は時々ある。膳椀茶碗徳利の類は、売るほどあるが、
風呂桶はない。風雅な花生は、注文とあらば揃うが、三味線胡弓琴は見かけない。
マンドリンも覚えがない。
ヨレクホールもたいしたことはない……
風呂桶はなくても、楽しいヨレクホールの蚤の市。毎月第二土日曜日、朝11時から

